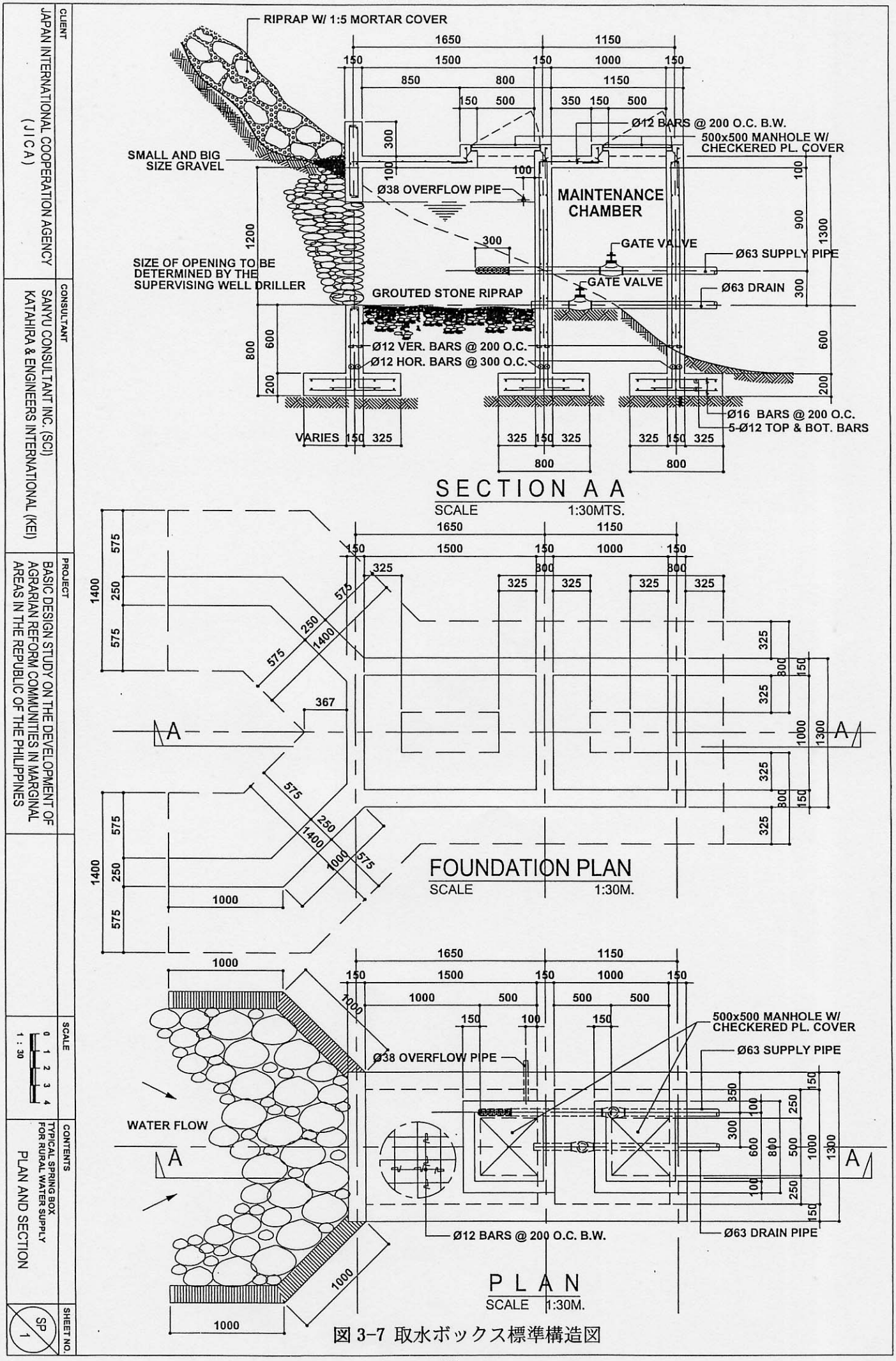


図 3-7 取水ボックス標準構造図

(4) 多目的集会場

多目的集会場は集会所としての機能と託児所、衛生施設としての機能を併せもつ施設とする。施設計画にあたってマランゴク、シラエ（ダラクタン）両地区における使用頻度や利用者数が概ね同程度であることから、計画諸元を下記のとおりとする。なお、両地区とも施設計画を立案しており、検討資料として使用する。また、施設建設と同時に場内整備も計画する。

- ミーティングルームは村議会、協同組合、女性グループ等が利用するものとし、定員を 12 名とする。
- ミーティングアセンブリーはコミュニティー及びグループ･ミーティングに利用するものとし、定員は 100 名を想定する。また、雨天での利用を勘案し屋根を設置する。
- 託児室は 40 名の児童を対象とし、午前 20 名、午後 20 名の児童保育を行う。
- 保健室はフィリピン側の設計事例、日本における診療室の事例等を参考に、各部屋とのバランスを考慮して決定する。
- 利用者 1 名あたりの占有床面積はフィリピンの基準、日本の基準を考慮し下記のとおりとする。

  会議スペース：　1.5～1.8m^2/人、ただし、講義形式では 0.7～1.2m^2 人

  託児スペース：　1.98～3.20m^2 人
- 建設資材は地元で入手可能な材料を用いる。
- 各部屋とも他の部屋を経由することなく出入りが自由な構造とする。
- 辺境地における電力供給事情が不安定であることから採光に注意する。

上記より、各部屋の床面積を算定した結果は次のとおりである。

<u>ミーティングルーム</u>

12 名×1.8m^2+1.5m×1.5m =23.85　改め　24m^2

<u>ミーティングアセンブリールーム</u>

100 名×0.95m^2=95m^2

<u>託児室</u>

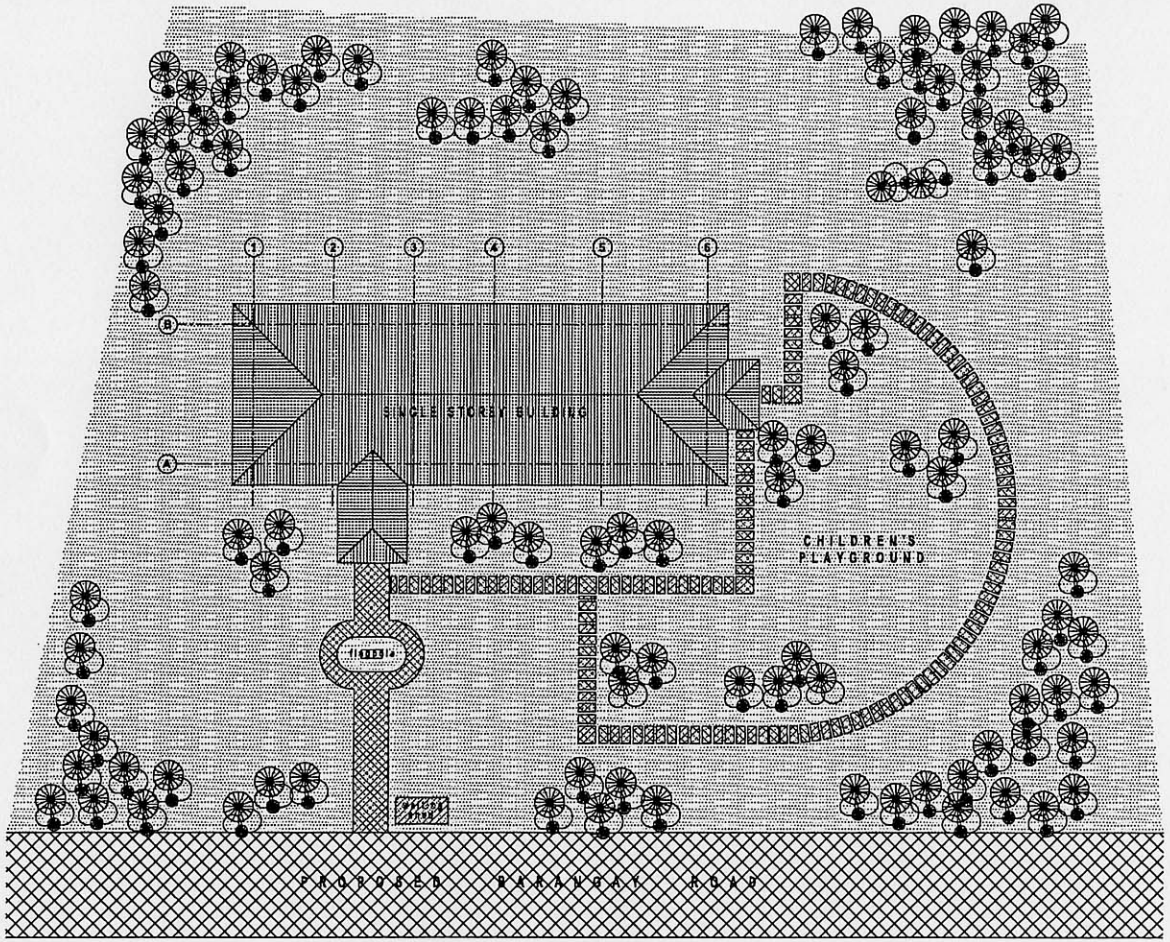
20 名×2.0m^2+1.5m+1.5m+1.5m×3.5m=47.5　改め　48m^2

<u>保健室</u>

15m^2+1.5m×1.5m+1.5m×3.5m=22.5　改め　24m^2

3-2-3 基本設計図

次図参照。



SITE DEVELOPMENT PLAN

SCALE 1 : 300 MTS

図 3-8 多目的集会場計画一般図(1)

CLIENT	CONSULTANT	PROJECT		SCALE	CONTENTS	SHEET NO.
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)	SANYU CONSULTANT INC. (SCI) KATAHIRA & ENGINEERS INTERNATIONAL (KEI)	BASIC DESIGN STUDY ON THE DEVELOPMENT OF AGRARIAN REFORM COMMUNITIES IN MARGINAL AREAS IN THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES		0 1 2 3 4 1 : 150	PROPOSED BARANGAY HALL SITE DEVELOPMENT PLAN	1/4